

## ★メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

## 【山口県子ども読書支援センター行事】

## ★「幼児のためのおはなし会」（毎月第一火曜日）

○日時：令和3年4月6日（火）11：00～11：20 ○会場：山口県立山口図書館 第2研修室 ○対象：幼児

## 《3月のおはなし会で使った本》

『たのしいおひなさま』（紙芝居） おおいじゅんこ/作・絵 教育画劇 2021

『でんしゃののって』（大型絵本）とよたかずひこ/著 アリス館 2006

『ぼくのくれよん』（大型絵本）長新太/おはなし・え 講談社 2003

『サンドイッチ サンドイッチ』（大型絵本）小西英子/さく 福音館書店 2014

当館でのおはなし会のプログラムと関連する絵本を、ホームページ上でも紹介します。おうちでもおはなし会をどうぞ。紹介した本は、「あかちゃん絵本」コーナーで展示しています。

## ★「春のスペシャルおはなし会」

○日時：令和3年4月18日（日）11：00～11：50 ○会場：山口県立山口図書館 第2研修室

○内容：エプロンシアター、パネルシアターなどによるおはなし会

○対象：幼児（3歳児から） ○定員：15名（要申込み・先着順） ○参加費：無料

◎申込み、連絡先：山口県子ども読書支援センター（電話：083-924-2111 FAX：083-932-2817 Eメール：[a50401@pref.yamaguchi.lg.jp](mailto:a50401@pref.yamaguchi.lg.jp)）

## 【新刊紹介】 価格は消費税抜き

## &lt;絵本-乳幼児から&gt;

『でんしゃくるかな?』 きくちちき/作 福音館書店 2021.2 ¥900

「くるかな?くるかな?」キリンやカバ、ゾウやライオンたちが電車を待っていると、ピンクの電車が「きたー!」みんな大喜び。「くるかな?またくるかな?」今度は青い電車が「きたきたー!」電車が来た時の動物たちは、うれしさを体中で表現し、喜びがどんどん大きくなっていく様子が描かれている。シンプルかつ力強い独特なタッチで描かれた、元気になる絵本。

『マスクをとったら』 いりやまさとし/作 講談社 2021.1 ¥1000

「マスクをとつたらなにしたい?」カエルさんは、「すいすいおよぎたい!」ライオンさんは、「がおーってさげびたい!」パンダさんは、「にっこりわらいたい!」みんなは何したい?「げんきいっぱいあそびたい!」こんな時だからこそ、思いっきり声を出したり、口を開けたり、みんなと一緒に時間を共有し分かち合いたい、そんな願いが込められた赤ちゃん絵本。

## &lt;絵本-3, 4歳から&gt;

『かける』 はらぺこめがね/著 佼成出版社 2021.1 ¥1300

「かけますかかけます ケチャップかけます」「ちゅるるるー」オムライスにはやっぱりこれだよ。 「ちよろちよろぴゃっぴゃっ」とおしょうゆかけるのは、ひややっこ!粉チーズは何にかける?あおのりは?「かける」の魔法で美味しさ倍増。かける様子を表現した擬音語も楽しい。「食べ物と人」をテーマに幅広く活動する、はらぺこめがねの新作絵本。

『ぱくぱくはんぶん』 渡辺鉄太/ぶん 南伸坊/え 福音館書店 2021.2 ¥900

おばあさんが焼いた美味しそうな大きなケーキ。おじいさんに、「半分残しといてね」と言っておばあさんはでかけていった。おじいさんがぱくぱくと半分食べたところへ犬のジョンがやってきて、その半分をぱくぱく。次にやってきたのはねこのミーニャ。これまたその半分をぱくぱく…。おばあさんはケーキにありつけるの?おじいさんや動物たちの表情がなんとも微笑ましい楽しい絵本。

## &lt;絵本-5, 6歳から&gt;

『しりとり』 安野光雅/さく・え 福音館書店 2021.2 ¥900

しりとりで遊ぼう!はじめのページの中から、好きな絵を選んで、その絵としりとりができる絵を、次のページからさがしてみよう。最後のページにつながったら「ん」でお願いします。つながらなかつたら最初のページにつながるの、戻ってつづきをしてみよう。植物や動物や食べ物や人物など、ユニークで美しい絵が満載の安野ワールド。絵もしりとりも繰り返し楽しめる言葉遊びの絵本。

『アパートのひとたち』 エイナット・ツアルファティ/作 青山南/訳 光村教育図書 2021.1 ¥1500

私が住んでいる7階建てのアパート。どのうちもドアがちよっとずつ違う。1階のドアは鍵がいっぱい。きっと泥棒の家族が住んでいる。6階のドアの前ではいつもひと休み。素敵な音楽が聞こえてくるから。住んでいるのはミュージシャンの家族だね…。7階に住む私が想像した各階の住人たちの部屋の様子が細かく描きこまれ、奇想天外で面白い。隅々までじっくり楽しみたい一冊。

## &lt;絵本-小学校低学年から&gt;

『すきなことにがてなこと』 新井洋行/作 くもん出版 2021.2 ¥1400

僕はスポーツが大好き。でもみんなの前で発表するのは苦手。話すのが得意なりんちゃんが一緒に発表してくれる。りんちゃんは動物が苦手なのに飼育係になった。でも動物好きのけんちゃんが手伝ってくれる。けんちゃんが苦手なのは…。好きなこと、苦手なことがあるから人は支え合い、繋がることができる。多様な人々が共生する社会を生きる私たちへのメッセージが込められた絵本。

『まちがいなんてないよ』 コリーナ・ルウケン/絵と文 島津やよい/訳 新評論 2021.1 ¥1800

その絵はひとつのまちがいから始まった。片方の目を大きくしすぎちゃった。じゃあもう片方の目も大きくすればいい。あれ?ま

たバランスまちがえた。それなら、めがねをかけたらどうかしら…。ちょっとしたまちがいも、大きな失敗も、考え方次第。想像力の魔法をかければ、とびきりのアイデアが生まれ、大傑作に早変わり。美しい細密画で描かれた、想像力を刺激される絵本。

#### <絵本—小学校中学年から>

『地球のことをおしえてあげる』 ソフィー・ブラッコール/作・絵 横山和江/訳 鈴木出版 2021.2 ¥1600

私たちが住む美しい星、地球。大きな太陽の近くにあつて、すぐそばには月がある。たくさんの星がある中で緑と青に見える美しい星が地球。地球にはたくさんの人がいろいろな家に住んでいて…。宇宙から来た誰かに地球を紹介するかたちで描かれた、コーデコット賞作家の美しい絵本。壮大な宇宙に想いを馳せ、私たちの暮らす地球のことを見つめなおすきっかけになる一冊。

#### <読み物—小学校低学年から>

『ねこの学校のいたずらペーター』 アンネリース・ウムラウフ・ラマチュ/作 アダルベルト・ピルヒ/絵 杉山香織/訳 徳間書店 2021.1 ¥1700

ねこの町に住むくろねこのペーターは、生まれて6週間たったので、小学校に入学することに。学校では、ねずみの捕まえ方を学んだり、歌を歌ったり。でもペーターは、間違つて粘土のねずみをかじったり、おやつミルクが入った大皿に落ちてしまつたりと、失敗続きだったが…。オーストリアで80年以上読み継がれてきた、挿絵たっぷりの幼年童話。

#### <読み物—小学校中学年から>

『みんなふつうで、みんなへん。』 柊野浩一/作 内田かずひろ/絵 あかね書房 2021.1 ¥1200

ネコのオスメスの見分け方を間違っていた室井さん、人の家の水道の水は、誰でも勝手に使ってもいいと思っていた村川君。3年1組のメンバーが、それぞれ勝手に思い込んで勘違いしていた、へんな話をリレー形式で描く。子どもの頃はそうだったと、大人も共感できるかも。毎日新聞朝刊「読んであげて」のコーナーに連載した原稿に加筆し、挿絵を描き下ろした作品。

#### <読み物—小学校高学年から>

『わたしのあのこのわたしの』 岩瀬成子/著 PHP 研究所 2021.2 ¥1400

小5の秋は、同じクラスのモッチの家で、父親のレコードをかけてもらうことに。途中、モッチの弟のせいでレコードに傷がついてしまい、秋はそれを許すことができない。一方モッチは、自分のことを「しっぽ」と呼ぶ友だちに違和感を感じ、秋に、助けしてほしいと思っていた。主人公の二人それぞれの目線でお互いへの思いを交互に描く。作者は岩国市在住の児童文学作家。

#### <読み物—中学生から>

『ヨンケイ!!』 天沢夏月/著 ポプラ社 2021.1 ¥1500

東京都の離島・大島にある渚台高校の陸上部に、都内の陸上名門校から転入生が入り 400メートルリレー（四継）で関東大会を目指すことに。それぞれに陸上への複雑な思いを抱え、バラバラだった4人がついにインターハイにまで出場。一走・受川星哉から四走・朝月渡まで、4人の視点で順番にそれぞれの心中が語られ、次々にバトンが渡っていく。悩み多き男子高校生の青春物語。

『きみのいた森で』 ピート・ハウトマン/作 こだまともこ/訳 評論社 2021.1 ¥1600

9歳のスチューイがある日、森で出会った同い年の少女エリー。二人は毎日のように森で遊んでいたが、ある日、エリーの姿がぼやけて消えてしまい、そのまま行方不明に。去年亡くなったザックじいちゃんから聞いた、ひいじいちゃんとその仇が森で消えてしまったという事件と関係するのか。2019年アメリカ探偵作家クラブ(MWA)エドガー賞児童図書部門受賞作品。

#### <ノンフィクション—小学校低学年から>

『もじをよむのがにがてなんです』 柳家花緑/語り 姫田真武/絵 NHK「ふつうってなんだろう?」制作班/編 ほるぷ出版 2020.12 ¥1800

小さいころから文字を読むのが苦手で、成績はいつもひどいもの。そんな少年が、中学を卒業して入った落語の世界では、口伝えで教わることばかり。少年にとってはラッキーなことだった。NHKテレのアニメ「ふつうってなんだろう?」を絵本化。語りは、読み書きが苦手である自分の経験を生かし、学習障害の社会的理解を深める講演会なども行っている落語家。

#### <ノンフィクション—小学校中学年から>

『フクシマ 2011年3月11日から変わったくらし』 内堀タケシ/写真・文 国土社 2021.2 ¥1800

東日本大震災による福島第一原子力発電所の事故により大量の放射性物質が大気中に放出されてから10年。事故後、福島県内の小中学校では、放射線についての授業を行い、放射能をはかる線量計を首から下げて登下校させた。一方、双葉町には、東日本大震災・原子力災害伝承館が開館し、当時小学生だった被災者が職員となって働いている。この10年と今の福島を、写真と共に伝える。

#### <ノンフィクション—小学校高学年から>

『マークで学ぶSDGs 家でみつけるマーク』 蟹江憲史/監修 ほるぷ出版 2020.12 ¥2800

コンビニのおにぎりのパッケージで見つけた「ライスインキマーク」は、SDGsのどの目標とつながっているの?ヘルメットに付いていたSGマークは?家で見つけられる、さまざまなモノについているマークの意味とSDGsとのつながりを解説する。自分とSDGsとのつながりを考えるきっかけを見つめられる本。他に『街でみつけるマーク』、『学校でみつけるマーク』の全3巻。

#### <ノンフィクション—中学生から>

『なんで洞窟に壁画を描いたの? 美術のはじまりを探る旅』 五十嵐ジャンヌ/著 中島梨絵/画 新泉社 2021.1 ¥2000

歴史部に所属する中1の理乃。東京で開かれた「ラスコー展」で洞窟壁画の謎に魅せられ、祖父と共にフランスに洞窟壁画を見に行くことに。研究者の田端さんの案内で専門的なことをわかりやすく教えてもらううちに、旧石器時代の人々に益々興味がわき、たくさんの疑問が渦巻く。課題設定から発表まで探究的な学びの過程を物語形式で楽しく語る。ラスコー周辺の洞窟・岩陰ガイド付き。

#### <研究書>

『認定絵本士養成講座テキスト』 絵本専門士委員会課程認定部会認定絵本士養成講座テキスト作成ワーキンググループ/編集 絵本専門士委員会独立行政法人国立青少年教育振興機構 2020.12 ¥1800

絵本専門士委員会が定める「認定絵本士養成講座カリキュラム」に基づいた「認定絵本士」資格取得のためのテキスト。「知識を深める」「技能を高める」「感性を磨く」の各講を、作家や絵本評論家、書店員や司書などエキスパート29人が執筆。基本的な事柄が写真や書影付きで、網羅的にわかりやすく解説され、子供に絵本を手渡す活動を志すすべての人に役立つ。

※【新刊紹介】の本は、県立図書館で現在受入準備中の本です。そのため、県立図書館の蔵書検索(OPAC)では検索できませんが、利用することは可能です。閲覧、貸出等を希望される方は、お問い合わせください。